

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語発達障害Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年	学期及び曜時限	前期 6,7時限他	教室名	402
担 当 教 員	堀 一夫	実務経験とその関連資格	大阪府立堺豊学校、大阪教育大学附属養護学校等で教員として勤務。担当クラスでの言語指導、グループ学習での言語指導を行っていた。また、小学校への巡回指導を行った。		

《授業科目における学習内容》

言語発達障がいのある子どもについて、家庭・地域・施設・学校等での実際の子ども様子を学びながら、体験的にその特性と支援方法について理解し、必要な支援の技能を身につける。この科目の学習を通して、実際に子どもと関わりながらその子の理解を深め、その子どもの実態に応じた支援をするための工夫をすることができるようになる。また、生活の有り様の分析をふくめ、広い視点から支援ができる実践力を養う。

《成績評価の方法と基準》

学期末試験(100%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

- ・テキスト ことばのストレッチ研究会編「ことばのストレッチ体操 発音発語編」明治図書, 2004
深浦順一・藤野博・石坂郁代編「言語発達障害学第3版」医学書院, 2021
- ・参考図書 堀 一夫編「発達障がいのある子のコミュニケーション力を鍛える」明治図書, 2013

《授業外における学習方法》

- ・いろいろな機会をとらえて、実際に子どもに接する経験をすることが望ましい。
- ・障がい幼児通園施設の見学等については別途案内する。
- ・毎回授業の最初に前回授業内容に係わる小テストを実施するので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

- ・授業で示された課題について、自分で考え、グループで討議し、言語でまとめて表現するということが大切になってください。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの言語発達をたどりながら、言語の発達障がいについて概要を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書(ことばのストレッチ体操) pp3-5を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	言語の発達障がいがいどのようなようにあらわれるのかについて、「子どもと出会うワーク」など実際の子ども様子を思い描きながら言語の発達障がいの基本的な内容を学ぶ。		
第2回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例検討(1) 前言語期の子どもを理解して指導計画を作成実施する方法を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	「子どもを観察し、必要なアセスメントをして、関わりながら理解していく中で、方針を立てて指導していく」ということをワークをしながら学ぶ。サイン言語などを含めた支援方法についても学ぶ。		
第3回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例検討(2) 語彙獲得期の子どもを理解して指導計画を作成実施する方法を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	「子どもを観察し、必要なアセスメントをして、関わりながら理解していく中で、方針を立てて指導していく」ことをワークをしながら学ぶ。		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例検討(3) 幼児期から学童期の子どもを理解して指導計画を作成実施する方法を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	「子どもを観察し、必要なアセスメントをして、関わりながら理解していく中で、方針を立てて指導していく」ことをワークをしながら学ぶ。		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	知的障がいの特徴について、基礎的なことがらを説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	事例などを通して知的障がいについて学ぶ。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	知的障がいの支援について、基礎的なことがらを説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例や教材の紹介などを通して知的障がいの支援方法について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障がいの特徴について、基礎的なことがらを説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例などを通して特異的言語発達障がいについて学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障がいの支援について、基礎的なことがらを説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例や教材の紹介などを通して特異的言語発達障がいの支援方法について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	局限性学習症の特徴について基礎的なことがらを説明できる。(1)	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例などを通して局限性学習症について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	局限性学習症の特徴について基礎的なことがらを説明できる。(2)	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例などを通して局限性学習症について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	局限性学習症の支援方法について基礎的なことがらを説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例や教材の紹介などを通して局限性学習症の支援方法について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の特徴について学習し、基礎的なことがらを説明できる。(1)	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例などを通して注意欠如・多動性障害について学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の特徴について学習し、基礎的なことがらを説明できる。(2)	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例などを通して注意欠如・多動性障害について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の支援方法について学習し、基礎的なことがらを説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	事例や教材の紹介などを通して注意欠如・多動性障害の支援方法について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害の評価について、基礎的なことを説明できる。(1)	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラム障害の評価について、観察、検査(AQ、M-CHAT等)などを通して理解する。		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語発達障害Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	前期 6,7時限他	教室名	402
担 当 教 員	堀 一夫	実務経験とその関連資格	大阪府立堺聾学校、大阪教育大学附属養護学校等で教員として勤務。担当クラスでの言語指導、グループ学習での言語指導を行っていた。また、小学校への巡回指導を行った。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>言語発達障がいのある子どもについて、家庭・地域・施設・学校等での実際の子ども様子を学びながら、体験的にその特性と支援方法について理解し、必要な支援の技能を身につける。この科目の学習を通して、実際に子どもと関わりながらその子の理解を深め、その子どもの実態に応じた支援をするための工夫をすることができるようになる。また、生活の有り様の分析をふくめ、広い視点から支援ができる実践力を養う。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>学期末試験(100%)</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ことばのストレッチ研究会編「ことばのストレッチ体操 発音発語編」明治図書, 2004 深浦順一・藤野博・石坂郁代編「言語発達障害学第3版」医学書院, 2021 ・参考図書 堀 一夫編「発達障がいのある子のコミュニケーション力を鍛える」明治図書, 2013 						
<p>《授業外における学習方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな機会をとらえて、実際に子どもに接する経験をすることが望ましい。 ・障がい幼児通園施設の見学等については別途案内する。 ・毎回授業の最初に前回授業内容に係わる小テストを実施するので、復習しておくこと。 						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で示された課題について、自分で考え、グループで討議し、言語でまとめて表現するということを大切にしてください。 						
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容		
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 自閉症スペクトラム障害の評価について、基礎的なことを説明できる。(2)	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。		
	各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラム障害の評価について、観察、検査(CARS、PEP-3、心の理論検査、FASCOM等)などを通して理解する。				
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 自閉症スペクトラム障害の特徴について基礎的なことがらを説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。		
	各コマにおける授業予定	事例の紹介を通して、実際に子どもを理解していくプロセスを掴みながら、自閉症スペクトラム障害のある子どもの特徴を学ぶ。				
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 自閉症スペクトラム障害の訓練・支援について基礎的なことがらを説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。		
	各コマにおける授業予定	事例の紹介を通して、実際に子どもに関わっていくプロセスを理解しながら、自閉症スペクトラムのある子どもへの訓練・支援方法を学ぶ。				
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 発達障がい児の言語コミュニケーション指導の技法について、その概要を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。		
	各コマにおける授業予定	発達障がい児の指導技法についてビデオやロールプレイを通して学ぶ。				
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 指導技法(INREALアプローチ)の基礎を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。		
	各コマにおける授業予定	ビデオ、ロールプレイを通してインリアルアプローチを学び、理解する。				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義を通じての到達目標	指導技法 (INREALアプローチ) の実際について説明できる。(1)	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	ロールプレイなどを通してインリアルアプローチの実際について学ぶ。		
第22回	講義を通じての到達目標	指導技法 (INREALアプローチ) の実際について説明できる。(2)	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	ロールプレイなどを通してインリアルアプローチの実際について学ぶ。		
第23回	講義を通じての到達目標	発語訓練・AACの実際の基本的技能を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	重度知的障害のある子どもに対する発語訓練・AACについて、実際の教材を用いて体験的に学習する。		
第24回	講義を通じての到達目標	環境調整(家庭など)について説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	家庭や地域への環境調整について学ぶ。また、その中で言語聴覚士の役割について理解する。		
第25回	講義を通じての到達目標	やりとり・会話訓練の実際の基本的技能を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	中程度の知的障がいがあり、かつ自閉症スペクトラム障がいのある子どもに対するやりとり会話指導訓練について、形成的指導や語用論的指導について体験的に学習する。		
第26回	講義を通じての到達目標	発達障がい児へのグループ指導の基本的技能を説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	知的障害のない発達障がい児への言語・コミュニケーション指導について、グループ指導の方法を中心に体験的に学習する。さらに、言語発達障がいの支援技法についてまとめる。		
第27回	講義を通じての到達目標	子どもの観察方法、観察のまとめの方法について説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	子どもの観察の仕方、観察のまとめの仕方をワークをしながら学ぶ。		
第28回	講義を通じての到達目標	観察のまとめの発表と討論を通して、子ども理解の方法と指導についての実際について説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	事例のまとめの発表、討論を通して、子どもの観察の仕方、観察のまとめと指導の仕方について理解を深める。評価法について必要に応じて補足的に学ぶ。		
第29回	講義を通じての到達目標	言語聴覚士の(学校を中心として)諸機関との連携について説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	特別支援教育の現状について具体的な様子を通して学ぶ。言語環境調整、養育者支援、カウンセリングマインドについて理解する。そして、その中で言語聴覚士の役割について学ぶ。		
第30回	講義を通じての到達目標	言語発達障がいの基礎知識について、実践で活用できる形で整理して説明できる。	プロジェクター パソコン	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	言語発達障がいの基礎知識と応用的知識について、実践で活用できる形で整理する。		